医療福祉建築賞2024 選考報告

選考委員長 三浦 研＋選考委員

HEALTHCARE ARCHITECTURE AWARDS OF 2024

Ken MIURA + Screening Committee

・第33回目の開催となる2024年度の医療福祉建築賞には30件の応募があった.
・応募対象は，2020年4月1日から2023年3月31日までに完成した建築物である.
・選考委員会は病院2件と福祉施設2件を選出した.

□ はじめに

賞の対象は，2020年4月から2023年3月末までの3年間に日本国内において新築，増改築または改修を行なった医療・福祉・保健施設であり，今年度は病院16点，診療所4点，保健･福祉施設10点の合計30点の応募があった. なお，うち1点は，複数の事業者による，まちづくりの観点からの医療福祉建築であった.

選考委員は，浅野晃司（学校法人慈恵大学），勝山貴美子氏（横浜市立大学），小菅 瑠香（芝浦工業大学），平野勝雅（大建Met），長島 一道（ハル建築研究所・筑波技術大学），湯淺篤哉（大林組），三浦の7名である.

□ 選考経過

第1回選考委員会（2024／10／9）では，応募作品すべてが選考対象となることを確認した. 第2回選考委員会（2024／11／22）では，各委員から応募資料の読み込み結果が報告され，1作品ずつレビューを行った. その後，記名投票により現地審査対象候補8作品程度を選出することとした. 7名の委員による計56票の投票結果は，満票1作品，6票2作品，5票0作品，4票4作品，3票5作品，2票5作品，1票5作品，0票8作品となった. 討議の結果，4票以上獲得した7作品に3票の中から1作品を加え，計8作品を現地視察対象とした. 現地視察は2024／11／29から2025／1／17に，各作品2～3名の委員で実施した.

第3回選考委員会（2025／1／20）では，現地審査の記録と写真をもとに，各作品の医療福祉建築賞として評価点や懸念点について報告を受け，慎重に議論を行った. 議論が尽くされたことを確認した後，受賞に相応しい作品について投票を実施. その結果，票を獲得できなかった作品を選考対象から除外し，授賞候補となった5作品について今後の医療福祉建築に与える影響やメッセージ性を議論した. そのうえで，再投票を行い，多数の支持を得た作品について，いずれも准賞ではなく医療福祉建築賞に相応しいことを確認し，選考委員全員一致のもと，以下4作品を医療福祉建築賞として決定した. なお，得票数の少なかった1作品については別途審議し，本賞が目指す「器と中味」の一体性が十分に達成されていないと判断した.

（京都大学 教授）

□ 講評（都道府県コード順）

○ 中部国際医療センター

岐阜県南部の美濃加茂市に位置する，民間の地域中核病院である. 急性期医療施設として陽子線治療施設や高精度放射線治療装置まで有する一方で，病院の上空通路で接続する分棟の「みのかも健康プラザ」には市の保健センターが区分所有者として入居している. 施設全体が地域住民にとっての安全安心の拠り所となるランドマークとなっており，居心地よく快適にまとめられている.

全体計画として3層吹抜けのホスピタルモールを中心とした低層部のゾーニングや動線計画は機能的かつ分かりやすく，病棟階も必要な機能要件を十分に満たして質実剛健である. 緩やかに診療空間へ繋がるモールには患者や来館者の心安らぐ「居場所」が各所に点在しており，また隣接棟の利便施設にもアクセスしやすいことから，結果として自由な診察待ちの形を実現している.

患者や職員が直接目にし，触れるインテリアや家具には上質な素材と洗練された色彩を採用する一方で，内外装仕上材の徹底的な吟味と明る過ぎない絶妙な照明計画により，建築として美しい. また精緻に行われたコスト削減の工夫は，限られた予算内で極めて高品質な病院建築を実現する取り組みとして新たな手本となる.

運営開始後数年が経過しているが，院内掲示物は徹底して整理され，運営管理の中で自ら院内アートを配して空間の質を向上するなど，施設の維持管理が高次元でコントロールできていることも確認することができた. ホスピタリティ溢れる空間づくりと，また昨今の建設価格高騰の中，極めて質の高いコストコントロールとのバランスの良さを高く評価した.

○ 中部国際医療センター

所 在 地　岐阜県美濃加茂市健康のまち1-1
延床面積　59,516 ㎡（含 みのかも健康プラザ）
竣工年月　2021年10月
開 設 者　社会医療法人 厚生会
管 理 者　社会医療法人 厚生会
設 計 者　㈱久米設計
施 工 者　フジタ・TSUCHIYA JV

写真撮影　㈱ロココプロデュース 林広明

○ 川西市立総合医療センター

所 在 地　兵庫県川西市火打 1-4-1
延床面積　36,619 ㎡
竣工年月　2022年5月
開 設 者　川西市
管 理 者　医療法人 協和会
設 計 者　清水建設㈱
施 工 者　清水建設㈱

写真撮影　㈱エスエス 大阪支店

○ 川西市立総合医療センター

自治体病院の経営改革の一環として，公民２病院の統合・移転により新設された病院である．病床数の削減と最適化を図り，地域医療に即した機能を備えつつ早期に黒字化を達成し，持続可能な経営基盤を確立している．

設計プロセスでは，統合前の２病院で看護動線調査と業務分析を綿密に実施し，その知見を基に新たな病棟運営システムを構築．具体的には，PNS（パートナーシップ・ナーシング・システム），セル看護，そしてゾーンディフェンス（４ブロック分割担当）を統合した独自の運用方式を導入．看護単位を42床に設定した「トリプルクロス全室個室病棟」により，限られた面積で効率的な医療サービスの提供を実現している．

病棟設計の特徴は，患者用クロス廊下に設置されたスタッフステーション（通称：出島）である．これにより，全病室前廊下とデイルームの視認性が向上し，効果的な患者の見守りが可能となった．また，「患者を動かさずスタッフが出向く」という基本理念は，病棟だけでなく，１階の患者支援センターや２階の外来検査部門においても適用されている．

特筆すべきは，竣工後も設計チームと医療チームが継続的にPOE調査を重ねて，その結果を業務改善に反映している点である．現地審査では，良質な医療環境が患者満足度を向上し，また，設計・医療両チームによる科学的アプローチがスタッフのモチベーション向上に貢献していることが確認され，医療施設における理想的な「器と中身」の関係として高く評価された．

○ きらくえん フィーカ須磨の丘

既存の特養と同一敷地内に計画された，多彩なお出掛け先と豊かで広い住まいのある新たなサービス付き高齢者向け住宅である．低層の共用棟と５階建住居棟がレベル差のある地形に馴染むよう配置され，周囲５方面からのアプローチが地域との自然なつながりを促している．

共用棟にはシェフが住民同士をつなぐレストラン，注文に応じて焼いてくれるパン屋さん，外部講師が機織のワークショップを開催する多目的室等があり，住民にも地域にも解放され，住民は日々主体的にその活動に関わっている．この様な付加機能が立体的に共用棟内外の通りに顔を出し，豊かな地域社会の一角が実現している．

居住棟では，32㎡～72㎡もの広さと豊富な11タイプのテラス・庭付きの住戸プランが用意され，住戸内でも寝室と昼室の位置を交換できる等多様な住み方と設えの選択肢を提供している．住戸のファサードには個々の暮らしぶりがみんなの中庭に表出する小窓やベンチがあり，コミュニケーションが発生しやすい工夫がなされている．

三角形の中庭ではラジオ体操の立体パノラマ風景が毎朝展開されている．この大きな吹き抜け広場を介して互いに向かい合う住戸群の絶妙な距離感が心地よい．

以上の様に，住人ごとの個性ある暮らしと多様な敷地内生活圏での社会との繋がりを実現するために運営と空間が高度に調和しており，これからのもう一つの豊かな高齢者の住まい像として高い評価につながった．

○ 尾道のおばあちゃんとわたくしホテル＋
ゆずっこホームみなり

広島県尾道市に位置する，小規模多機能型居宅介護施設と宿泊施設の複合型プロジェクトである．事業者と設計者のほか，感情環境デザイナー，コミュニティデザイナー，コピーライター，造園家など複数の専門家が一体となって計画に取り組んでいる点が特徴的である．

地域と福祉の距離を縮めたいという理念から，事業者は高齢者の魅力を「0.25倍速のスロー・ラグジュアリー」と位置づけた．そのコンセプト通り，宿泊者は庭の向こうに見える高齢者の暮らしで丁寧な時間の使い方を思い出し，高齢者は隣の宿泊施設の受付業務などをお手伝いすることで生きがいを見出せるようになっている．

時間の流れを操作する工夫の一つとして，施設のいたるところにコピーライターの手掛けたテキストが建築の一部として，あるいはおもてなしの一部として散らばっている点もユニークである．小さな言葉を発見して意味を考えるうちに，宿泊者は自分の人生を振り返る時間を与えられている．

小規模多機能型居宅介護施設は適度な大きさの中庭とキッチンダイニングを中心に，小道のような廊下で個室へと繋がれており，施設っぽさを感じさせない空間を成功させている．テレビのための空間をメインホールと切り離している点や，高齢者の生活が宿泊施設側のベランダへと開かれている点も，そこで起きる暮らしの風景をよく理解して計画されている．隣接する宿泊施設はテーマ別の３室と天井の高い共用空間で構成されており，ゆったりとした時間を楽しむための工夫が随所に施されていた．建築と運営の両面から，利用者の生活を柔軟に創造・提案している点を高く評価した．

○ きらくえん フィーカ須磨の丘

所在地　兵庫県神戸市須磨区妙法寺字菅ノ池3-1
延床面積　4,153㎡
竣工年月　2020年9月
開設者　社会福祉法人きらくえん
管理者　社会福祉法人きらくえん
設計者　㈲富永譲・フォルムシステム設計研究所
施工者　㈱ソネック

写真撮影　上田宏建築写真事務所＋天神木健一郎

○ 尾道のおばあちゃんとわたくしホテル＋ゆずっこホームみなり

所在地　広島県尾道市美ノ郷町三成1114-1
延床面積　介護施設：299㎡，宿泊施設：148㎡
竣工年月　2022年2月
開設者　㈱ゆず
管理者　㈱ゆず
設計者　ハンクラデザイン＋
福間優子建築設計事務所
施工者　大和建設㈱

写真撮影　足袋井写真事務所